



Messe München

# LASER World of PHOTONICS INDIA

## ファイナルレポート

国際レーザー・オプトエレクトロニクス応用技術専門見本市  
インド / バンガロール国際展示会場  
2025年9月17日～19日

2025年9月20日

### LASER World of Photonics India 2025

### フォトンクス産業のグローバル展開と成長を加速

—インドのハイテク分野における事業拡大のための戦略プラットフォーム—

#### Summary

- 3日間で、来場者は10,844人、バイヤー・セラーミーティングは500件を超える
- 20カ国以上が参加。公式代表団も派遣され、各国パビリオンも設置された
- PRISMカンファレンスとSmart Manufacturing with Lasersカンファレンスが主導する支援プログラムが、革新的な研究と産業応用の架け橋となった



#### Facts & Data

|                    |   |
|--------------------|---|
| 会期                 | 2025年9月17日(水)～19日(金)<br>午前10時～午後6時(最終日午後5時)   |
| 会場                 | インド・バンガロール国際展示会場<br>Bombay Exhibition Centre (BEC)  |
| 主催                 | Messe München - メッセ・ミュンヘン<br>Messe Muenchen India Pvt. Ltd. - メッセ・ミュンヘン・インド                 |
| 出展規模               | 6,000 m <sup>2</sup> (2024年: 6,000 m <sup>2</sup> )   |
| 出展企業               | 20カ国から150社 (2024年: 18カ国から120社)  |
| 来場者総数              | 10,844人 (2024年: 22カ国から4,300人)   |
| 主な出展品              | レーザー・オプトロニクス、光学、オプティクス、センサー・テスト・測定技術、サービス、レーザーシステム製造技術、光学測定システム、光学情報技術                      |
| 出展日本企業<br>(現法出展含む) | (株)オハラ、(株)永田製作所 他   |
| 専用URL              | <a href="http://www.world-of-photonics-india.com">www.world-of-photonics-india.com</a> (英語) |

2025年9月20日、Laser World of Photonics India 2025がバンガロール国際展示会場で閉幕した。本見本市は、インドにおける単なる国内見本市の枠を超え、世界で最も重要な成長経済国の一つであるインドにおいて、グローバル戦略の推進と市場アクセスに不可欠なプラットフォームとしての地位を確立した。今回の戦略的役割の拡大は、先進的なフォトニクス技術およびレーザー技術が、インドの野心的な産業・製造分野の変革の中核へと急速に統合されつつあることを反映している。

3日間にわたって、高密度なネットワーキングと戦略的な商談を促進し、グローバル企業と国内大手企業双方にとっての重要な役割を強調した。出展者数 150 社超、参加国数 20 カ国余り、展示面積 6,000 m<sup>2</sup>、商談志向の高い業界関係者 10,844 名、事前調整による B2B ミーティング 500 件超。こうした機会を基に、需要側と供給側が一堂に会し、南アジア市場への参入と事業拡大戦略を支える重要な推進力としての機能を強く示している。



### 戦略性と先見性に富んだリーダーの発言

メッセ・ミュンヘンの IMEA 部門プレジデント兼 Messe Muenchen India CEO のブピンダー・シンは、「今年の見本市における実践的な議論は、『なぜ』から『いかに』へと本質的に転換した。インド市場の可能性を検証する段階は既に終え、今や大規模な技術統合が実際に進んでいる。ここに参画した成果は、今後 1 年間の資本配分やパートナーシップ戦略に直接影響を及ぼし、本見本市が経営層にとって戦略的に不可欠な場であることを明確にしている」と述べている。

そして、メッセ・ミュンヘン CEO のラインハルト・ファイファーは、「グローバル企業にとって、インドは2つの重要な機会を提供している。ひとつは広大な国内市場、もうひとつは急速に発展するイノベーション拠点だ。ここで交わされた対話は、単なる個別のビジネスにとどまらず、共同開発、サプライチェーンの現地化、そして長期的な戦略的パートナーシップの構築など、多岐にわたる。本見本市は、こうした交渉のための年次プラットフォームとして機能している」と述べている。

リトアニア共和国外務副大臣 Julius Pranevičius 氏は、「この見本市は、グローバルなイノベーションと地域の専門的知識が戦略的に融合する場であり、サプライチェーンの強靭性を高め、成長市場インドへへの技術導入の加速に向けて、国境を越えたパートナーシップへの明確な道筋を示している」と述べている。

本見本市には、ドイツ機械工業連盟 (VDMA)、欧州フォトニクス産業コンソーシアム (EPIC)、インドレ

レーザー産業協会(LIAI)、積層造形技術センター(NCAM)、リトアニア・レーザー協会、インド自動車研究協会、ピーニャ産業協会など、国内外の業界団体から権威ある支援が寄せられている。こうした連携は、インドの戦略的方向性と、国境を越えた産業連携を促進する場としての本見本市が果たす役割に対して、業界の揺るぎない信頼を示すものである。

今回のカンファレンスでは、技術導入と業務統合という二つの課題に、戦略的に対応するようプログラムが構成されていた。各セッションでは、単なる技術的デモンストレーションを超えて、フォトニクスがサプライチェーン全体の効率性、精度、イノベーションをいかに促進し得るかというビジネス的な意義が掘り下げられた。

IEEE Photonics Society (IEEE フォトニクス部門)との連携のもと、2 日間にわたって開催された Photonics Research and Innovation in Science and Manufacturing (PRISM) conference (科学と製造におけるフォトニクス研究・イノベーション会議)は、基礎研究と商用量子フォトニクスとを結びつける上での重要な橋渡しの場となった。これと並行して、NCAM が支援する「積層造形におけるレーザー駆動型イノベーション・セミナー」では、積層造形とスマート製造における ROI (投資収益率)と量産への展開可能性について厳密な分析が行われ、経営層に対して、当該技術が収益基盤と競争優位性に与える影響が明確に示された。さらに、EPIC とリトアニア・レーザー協会が主導するフォーラムでは、量子コンピューティングから防衛分野に至るまで、グローバル・サプライチェーンの動向と連携の機会に関する卓越した知見が共有された。

Laser World of Photonics India 2025 は、インドのフォトニクス市場が成熟した戦略的成長段階へと移行しつつあることを明確に示した。本見本市は、商業的な連携の構築、戦略的ロードマップの整合、そして数十億ドル規模の市場の未来を形づくる場として、グローバル産業界の年間主要スケジュールに組み込まれる重要イベントへと進化を遂げた。本イベントは、アジアにおけるハイテク産業の進展状況とビジネスチャンスを把握するための、最も信頼性の高い指標となっている。

次回は 2026 年に開催の予定。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ [www.world-of-photonics-india.com](http://www.world-of-photonics-india.com) まで。

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel. : 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: [info@messe-muenchen.jp](mailto:info@messe-muenchen.jp)

URL: [www.messe-muenchen.jp](http://www.messe-muenchen.jp) (日本語) [www.messe-muenchen.de](http://www.messe-muenchen.de) (英語 / ドイツ語)